

ふるさとの森づくり体験（植樹編）

- ☆ 日 時：平成24年3月4日（日） 10:00～16:00
- ☆ 場 所：ふるさと牧場（防府市久兼410）
- ☆ 参加者：47人（こども22人・大人25人）
- ☆ 主催者：こぶしの里牧場交遊会

1 スケジュール

- 10:00～ 開会・オリエンテーション
- 10:10～10:20 「ふるさと牧場」山本氏の講話
- 10:20～12:00 みんなが集える森づくり（植樹作業）
- 12:00～14:00 野外調理・昼食
- 14:00～16:00 シイタケの菌打ち作業
ふりかえり

2 活動内容

交流ハウスに隣接する山に、花や実のなるものや紅葉の美しい樹木を植える。また、枝打ちしたヤマザクラの枝にシイタケ菌打ちを行った。

○ 開会

こぶしの里牧場交遊会の清水氏から活動についての説明や注意があった。

○ 講話 「ふるさと牧場」山本氏

ふるさと牧場は、牛との協働で農業を行っている。牛には朝晩エサをやる。エサを食べた牛を放牧すると、山に入り草を食べる（山本氏曰く、“舌”草刈）。そして糞尿の散布をする。その糞を栄養として木や稲等が育つ。そしてワラや草を牛が食べる。

牛が下草刈りをしてくれる所は人が手をかけずにすむ。牛は、大切な働き手だ。

この日は一日中雨が降り続いたので、実際に牛が働いているところを見ることは出来なかった。肥料となる牛の糞は山道のあちこちにあった。

○ 植樹

10月に間伐作業を実施した山にモミジ、クリ、クルミ、ドウダンツツジ、コウバイ、ロウバイ、ハナミズキの植樹を行った。樹木は、各家族が1本以上植樹し、樹名、植樹日、植樹者名を記載した樹名板をとりつけた。

樹木は、花や実がなるものや紅葉するもので、山を彩るそれらの樹木を見に子ども達がまた訪づれ、山の作業等に関わりたくなるようにと選定された。



小屋の後ろに見える山に植樹を行う。間伐作業後に山道を造り、石垣を組んであった。



植樹をする樹木（ツツジは2 m程度の高さがある）



一部の植樹場所は牛が入らないように柵で囲われていた



植樹方法の説明。講師が、大きな木は、茎の付け根から20 cm程度隠れるように植えること等の説明をした。



植樹場所まで1家庭ごとに樹木を抱え、山道を移動。説明通り茎の付け根から20 cm隠れるような穴を掘り、肥料を入れ植樹した。



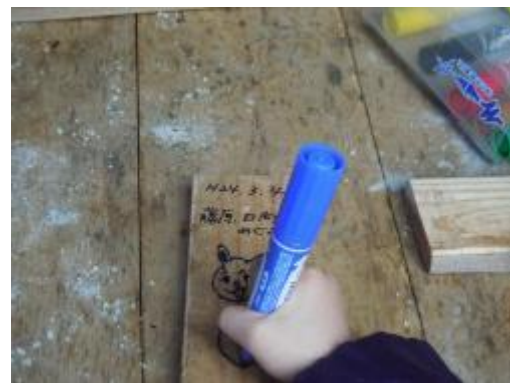
子ども達も大活躍



ツツジは支えをし、樹名板を付けて作業終了



クリ等の小さい木は、支えなし。穴を掘り植樹。



樹名板作成中（樹名板は子ども達が作った）

○ シイタケの菌打ち

こぶしの会の指導を受け、ドリルで穴をあけ、椎茸菌を打ち込む。

ホダギは、冬に枝打ちした山桜の枝。初めは、おそろおそろ手を出していた子ども達も、2本、3本とやるうちに、大人の手を借りずに出来るようになった。

シイタケが出るのは、2年後。その時までふるさと牧場の森づくり等に参加し、シイタケが出たら、料理をしようとホダギに菌打ちした人の名前を書いた。



○ ふりかえり

各家庭代表が本日の活動の反省や感想を述べた。主催者団体からは、今後の活動等についての紹介や体験発表会のデモンストレーションがあった。

朝からあいにくの雨でしたが、予定の行事を全て行うことができました。

子ども達と参加された父親が、「子ども達と参加でき楽しかったので、また参加します」と言われていました。「ふるさと牧場」での活動は、親子の時間がもて、自然とふれあい併せて場づくりもできとても有意義だったと思います。

こぶしの里牧場交遊会では「ふるさと牧場」で、作業と野外調理（パン作りや里汁、竈で炊飯等）を組み合わせ、1日を自然の中で活動できるような機会を提供されています。自然の中で子ども達と作業をする楽しさを感じてみませんか。